

令和7年度 ワークセンター夢の樹 就労継続支援B型 事業報告書

1 総括

令和7年度も6年度と大きな状況の変化はなく概ね安定した活動ができたと感じている。また、6年度に課題であった職員の態度（無表情、不愛想等）も改善が見られ、活気ある雰囲気に変わりつつあると共に、中核の職員の育成が進み、全体的に職員間のチームワーク、連携協働は強化されていると感じている。このことが利用者にも良い影響を与え、事業所の雰囲気が良くなったという評価を内外から得ることができた。但しリスク管理の点では大きな課題も残った。利用者1名が転倒により右肩骨折という怪我を負ったほか、利用者の高齢化から身体機能の低下による転倒に繋がるケースが増えてきており、改めて移動時の見守りや付き添いの徹底が重要であると感じている。また、送迎中の車両事故が6件発生し、6年度比と同数となり、改めて安全運転の更なる徹底が求められる。更に大きな反省点として、労務管理の杜撰さがあげられる。時間外勤務の一部賃金未払いや36協定締結の手続きの不手際など、事業所としての労務管理の在り方に大きな問題があり、早急な改善が必要と考えている。その他、7年度も利用者の生活環境の整備や介護者不在の緊急時の支援等が大きな課題となった。通所時間帯の支援のみでなく、生活全般を視野に入れ、医療、居住支援など様々な関係機関との連携の重要性を改めて感じているところである。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-5
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 50人
- 6) 利用現員 69人（令和8年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員
 管理者 1名
 サービス管理責任者 2名（常勤換算1.2）
 職業指導員 6名（常勤換算4.9）
 生活支援員 10名（常勤換算7.6）
 目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）

職員グループ別内訳

- ・あかしあグループ
 職業指導員 3名（常勤換算1.9）
 生活支援員 5名（常勤換算3.8）
 目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）
- ・みどりグループ
 職業指導員 3名（常勤換算3.0）
 生活指導員 5名（常勤換算3.8）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援。
 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
 安心と希望の持てる生活。
- 4 基本方針 生き生きと働ける職場
 日中活動の保障
 豊かな生活の支援
 個別支援計画に基づいた計画的な支援
 安心できる将来への支援

5 実施事業

《あかしあグループ》

1) 就労支援事業

- (1) 傘の値付け (令和7年4月終了)
- (2) ダイレクトメール封入、封緘、シール貼り
- (3) タイルをレールに張る建築資材製作 (令和7年4月終了)
- (4) 古着の値付け (令和7年4月終了)
- (5) 箱の組み立て
- (6) 小平市報の折込
- (7) 公園清掃
- (8) 神社清掃
- (9) 教会のトイレ清掃
- (10) 事務封筒製作
- (11) 緑化推進事業
- (12) 防災用トイレの袋詰め (令和7年3月開始)

2) 生活支援事業

- (1) 夕方生活支援事業

3) 行事

(1) 年間計画

- 7月 東京競馬博物館見学及び食事会 (バーミヤン 府中天神町店)
- 11月 一泊旅行 (栃木県那須方面)
- 12月 忘年会 (華屋与兵衛 所沢北原店)
- 1月 初詣 (小平武蔵野神社)

(2) その他

- 喫茶 (月1～2回)

4) 日 課

開所・送迎	8:30～9:40
朝会	9:40～9:50
準備	9:50～9:55
作業	9:55～10:50
休憩	10:50～11:00
作業	11:00～12:00
昼食	12:00～13:00
作業	13:00～14:00
休憩	14:00～14:10
作業	14:10～15:10
片付け	15:10～15:15
終礼	15:15～15:20
送迎・清掃	15:20～16:20
作業点検、記録等	16:20～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

《みどりグループ》

1) 就労支援事業

- (1) ポスティング作業
- (2) 古着の値付け (令和7年4月終了)
- (3) 箱の組み立て
- (4) ダイレクトメール丁合、封入、封緘、シール貼り
- (5) 事務封筒製作
- (6) 空き缶つぶし

- (7) タイルをレールに張る建築資材製作（令和7年4月終了）
- (8) 資源回収
- (9) 緑化推進事業
- (10) 公園清掃
- (11) マンション清掃
- (12) おもちの袋詰め作業（令和7年4月終了）
- (13) ヘアゴムなどの袋詰め（令和7年7月開始）
- (14) 防災用トイレの袋詰め（令和7年3月開始）

2) 生活支援事業

- (1) 生活支援プログラム（週3日実施）
- (2) 夕方生活支援事業（週2日実施）

3) 行事

(1) 年間行事

- 4月 永年勤続表彰式
- 5月 小平市障がい者運動会
- 6月 創作活動（お絵描きバック）
- 7月 かき氷の食事会、DVD鑑賞（あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない）
- 8月 多摩六都科学館見学
- 9月 食事会（夢庵 東久留米弥生店）
- 10月 散歩（萩山方面）
- 11月 秋の一泊旅行（山梨県 石和方面）
- 12月 創作活動（クリスマスリース作り）
- 1月 新社会人を祝う会
- 2月 ボウリング
- 3月 音楽鑑賞

(2) その他

- 音楽教室（月1回）

4) 日 課

開所・送迎	8：30～9：00
朝礼	9：00～9：20
準備	9：20～9：40
作業	9：40～10：40
休憩	10：40～10：50
作業	10：50～11：50
休憩	11：50～13：00
昼礼	13：00～13：10
作業	13：10～14：10
休憩	14：10～14：20
作業	14：20～15：10
作業片付け	15：10～15：15
終礼・お茶	15：15～15：25
送迎・清掃	15：25～16：30
作業点検・記録等	16：30～16：45
職員打ち合わせ	16：45～17：30

6 重点課題・目標

1) 活動

- | |
|--|
| (1) 利用者一人ひとりが楽しく安心して過ごせる環境づくりと様々な経験による豊かな生活の実現 |
|--|

【成果と課題】

殆どの利用者は落ち着いて活動に参加しているように見受けられるが、人間関係に関する不満や不安から気持ちが不安定になる利用者が増加傾向にあり7年度は全体の1割程度に達している。その都度、傾聴や相手との距離をとることで対応している。また、夕方の余暇支援活動（ボウリング、DVD鑑賞、料理など）は全体の3割程度24名の利用者が参加したが、7年度初めて参加した利用者が1名いた。多くの利用者が楽しみにしている様子がうかがえた。

(2) 危機管理の徹底による事故防止（転倒、誤薬、誤嚥等）

【成果と課題】

昨年度以降、服薬時の確認を職員2名で行うように体制を変更してからは、服薬に関する事故は起きていない。また、歩行が不安定な利用者には付き添いを行い、転倒防止に努めた。ヒヤリハットの転倒件数は6年度の44件から25件と減少した（昨年度1名と今年度1名に歩行の不安定な利用者が退所した要因も大きい）。しかし、転倒による骨折事故も発生しており、7月に歩行時の見守り、付き添い対象者を6名から10名に拡大した。これ以降は、怪我に至る転倒事故は起きなかった。

(3) 本人、家族の高齢化等による家族機能や生活基盤の変化への対応

（職員の相談支援能力の向上や地域の関係機関との連携強化により、一人ひとりの利用者が地域で安心して暮らせるよう生活基盤の整備や再構築に向けて積極的な役割を果たす。）

【成果と課題】

生活基盤の再構築が必要なケースは3件発生した。母の入院及び高齢化による介護力低下によるものが1件、本人の自立促進が1件、疾病による緩和ケア施設の入居となったケースが1件であった。最初のケースは相談支援センターと連携し、ショートステイとグループホーム探しを行った。母の入院中のショートステイ利用は行えたが、グループホームは見つかっておらず、継続した課題となっている。次のケースはグループホームに入居することができ、徐々に生活が安定に向かっている。最後のケースは、入居後、気持ちの安定化のため相談対応や傾聴などを行っていたが、2か月で逝去された。その他地域生活の維持が困難な緊急事態には至っていないが、本人、介護者の高齢化による機能低下の可能性などハイリスクな状況にあると考えられる利用者は5名あり、各利用者の生活状況の把握や地域の社会資源との連携強化が重要と考えている。

(4) 一人ひとりの社会性や能力の伸長

【成果と課題】

【1階あかしあグループ】

利用者の多くは40代以上で就業経験があり、社会経験も豊富なことから、改めて社会的ルールの学習が必要な人は若年層に限られているが、脳血管障害の影響からか、感情のコントロールが苦手な利用者もいる。たまに些細なことで利用者同士のトラブルに発展することがあるが、職員の仲介や助言により、大きなトラブルに発展していない。また、今年度は、多くの利用者が下半身の身体機能の低下が見られ、転倒により骨折に至るケースがあった。歩行に不安がある利用者については、休憩時間や施設内の移動時などに職員が付き添い、歩く機会をなるべく多くするように取り組んでいる。

【2階みどりグループ】

多くの利用者は自発的に行動することが多く、また集中して作業に取り組むことができている。令和5年度6月から当番制にした朝礼の出席確認や昼礼時の弁当注文の確認の取り組みも継続しており、一人ひとりが責任感を持って取り組んでいるように見受けられる。また、昨年度に引き続き、将来一般就労を目指している利用者2名が小平市役所での施設外実習に参加した。この体験を通じて、個々の課題が改善し、就業能力や社会性の向上に繋がっているように見受けられる。

(5) 作業活動の充実

- ① 安定した作業提供
- ② やりがいを感じることでできる作業の実施
- ③ 新規作業の開拓
- ④ 利用者の作業能力の維持、向上
- ⑤ 作業収入の維持、向上
年間作業収入目標額 9,850,000円
(令和6年度作業収入見込額 9,500,000円)
- ⑥ 利用者工賃向上

【成果と課題】

- ①受注作業の取引先と密に連絡を取り、安定して作業提供を行うことができた。また、ダイレクメール作業の納品と資材搬入の間の閑散期（半日から1日程度）は、資源回収作業や清掃作業など他の作業を中心に行うことや、事業所内の消毒、清掃、備品の手入れ等を行い、時間の有効活用に取り組んだ。
- ②多くの利用者が集中して作業に取り組んでいるほか、流れを把握し、準備や片付けを自発的に行い、責任感や意欲を持って取り組んでいるように見受けられる。また、積極的に新しい作業工程に取り組みたいと希望する利用者も6名いた。
- ③7月より新たにヘアゴムやたわしなどの袋詰め作業を始めた。月に200袋～300袋程度の受注があり、300円～1,000円の収入があった。作業量は多くないが、室内作業の閑散期などに4名の利用者が取り組んでおり、作業提供の安定化に役立っている。
- ④20～30歳代の利用者の中には作業スピードや正確性の向上が見られる利用者が複数見られる。また、高齢の利用者の多くは作業能力を維持できていると感じている。昨年度と比較し、利用者全体の作業能力は上がっているように感じる。

⑤

	作業収入
令和7年度目標	985万円
令和7年度実績	1,040万円
目標の達成率	105.4%

安定した作業を受注できたこともあり、目標を達成することができた。

⑥

	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
月給	15,192円	15,200円	16,616円

令和6年度実績の15,192円より1,424円増額し、月額平均工賃は16,616円となり、目標の月額15,200円を超えることができた。

（6）健康管理の充実

- ①新型コロナウイルス感染症など感染症対策を徹底する。
- ②利用者健康診断・身体測定を実施し、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健師等との連携を密にし、疾病の予防に努めるほか、機能低下への対応を行う。
- ③看護師による健康相談の実施

【成果と課題】

- ①基本的な感染予防対策を実施し、年間で利用者2名、職員1名の計3名が新型コロナウイルス感染症に罹患したが、施設内での感染拡大は起きなかった。
- ②利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。
- ③法人内生活介護事業所から看護師派遣の協力を得て、1名の利用者に週1日の褥瘡治療を実施した。その他健康相談等はなかった。

2) 人材育成

（1）一人ひとりの利用者への丁寧な支援

【成果と課題】

利用者からの相談には傾聴の姿勢を務めており、利用者とは概ね良好な関係性が築けていると感じる。また、長年の課題である声かけが命令口調になることや目上の利用者に対してあだ名で呼ぶことは徐々に改善はしているが、未だ徹底に至っていない。長年の課題でもあり、次年度更なる指導強化を図りたい。

(2) PDCAサイクルの実施など支援スキルの向上

【成果と課題】

利用者の状況や支援の経緯をケース記録に丁寧に記載すること、また記録等を基に個別支援計画の達成状況について評価することについては定着してきているが、記録の字が雑で読めない点はまだ改善されていない。また、管理者の指導不足もあり、支援計画の目標に関連付けした記録も依然不十分である。

(3) 管理職候補者の育成による指導力、内部牽制の向上

【成果と課題】

各グループの職員態勢や作業の進捗状況を確認しながら、グループ間で相互に協力し合うことが多くなっている。また、自分のグループ以外の利用者の状況についても関心を示す職員が増えてきている。これまで2階みどりグループのみであった現場リーダーを6月より1階あかしあグループにも配置し、現場での指導力、内部牽制強化を図り、徐々に効果が出てきている。

(4) 職員のチームワークの強化

【成果と課題】

各グループの職員態勢や作業の進捗状況、利用者支援（別のグループの利用者含め）の方法を確認しながら、グループ間や職員個々で互いの業務を補い合い協力体制がとられている。ただし、利用者の他害による精神的ケアの不足など管理者、リーダー層に職員の心情面への配慮が不足している場面があり、大きな反省点となった。

(5) 明るく活気のある雰囲気作り（挨拶の履行、笑顔、積極的なコミュニケーション等）

【成果と課題】

積極的なコミュニケーションや大きな声で挨拶するなど、徐々に明るい職場が作れているが、管理者をはじめ、まだ徹底しきれていない場面もあることから、継続して取り組む必要がある。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

1日平均利用者54人（73人在籍、出勤率73%）を目標（令和6年度実績1日平均利用者53.3人ー令和7年1月末現在）とする。また重度者支援体制加算の再算定を目指す。

【成果と課題】

1日平均利用者数は50.5名（69名在籍、通所率71%）となり、昨年度と比較し、2.6名減少した（令和6年度実績は、73名在籍、1日平均利用者数53.1名、71.6%）。利用者3名の退所、入院や親の介護などによる長期休みが主な原因である。今年度新たに重度者支援体制加算を算定したが、利用実績の減少に伴い、給付費収入は約9,900万円となり、昨年度同時期の約1億230万円と比較し、約330万円の減額となった。

(2) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

備品や消耗品においては、在庫確認により無駄な購入を防止しているほか、無駄な印刷を行わないよう試し刷りなどを行っている。ただし、未使用部分の消灯やエアコンの消し忘れが依然みられている。

7 事故等報告

- 1) 5月 朝の送迎時、車いすを使用している利用者がリフト車のリフトに乗るため、自力で昇降版に 乗り上げた。勢いよく乗り上げてか、車いすの前輪が浮いてしまい車いすのまま転倒し、背中や頭をぶつけた。救急搬送し、検査の結果、異常は見られず、その後の健康状態も良好であった。
- 2) 6月 利用者の送迎で事業所の駐車場から右折で道路に出る際、左側からの直進車に気付か

- ず、相手車両の右側前方に車両にぶつけてしまい、相手車両の右前方がへこんだ他、車体から液漏れがした。怪我人等はなかった。
- 3) 7月 狭い道路をバックで移動した際、右後方にある電柱との距離を見誤り、車両の右後方が電柱に接触した。
- 4) 7月 利用者の送迎中でトラックとすれ違う際、左側にあるガードパイプに気付かず、車両の左側後方に接触した。怪我人等はなかった。
- 5) 7月 利用者がロッカー前でバランスを崩し、右肩から床に倒れた。職員同行の下、通院したところ右肩関節骨折で全治1か月の怪我をした。
- 6) 7月 行事の外出先の駐車場で、利用者が急に意識を失い転倒した。転倒後、すぐに意識は回復したが、頭部から出血があった。救急搬送し、検査の結果、異常は見られず、その後の健康状態は良好であった。
- 7) 8月 車道に車両を停止させていたところ、後方から通行してきた車両が当事業所の右サイドミラーと接触し、右サイドミラーが破損した。破損については、相手側の賠償保険で修理した。
- 8) 9月 利用者の送迎中、信号機のない横断歩道で歩行者が立っていることに気付かず、走行したところ、現場にいた警察官に一時不停止及び通行妨害違反の取り締まりを受けた。
- 9) 12月 利用者の送迎で左折をする際、左側にある駐車場の石塀との距離を見誤り、車両の左側面と石塀の角が接触した。怪我人等はなかったが、石塀に多少の擦り傷残り、駐車場の管理者より修繕の請求があり、法人加入の自動車任意保険で対応した。
- 10) 3月 事業所の駐車場で車両を駐車させていたところ、左隣の車両との車両感覚を見誤り、運転していた車両の左後方と左隣の車両の右側中央部分が接触した。怪我人はいなかったが、運転していた車両の左側テールランプが破損し、修理した。
- 11) 3月 管理者が職員の時間外勤務を15分未満切り捨てて算定しており、賃金の未払が発覚した。未払金については、過去3年分を遡り、退職者を含めて該当する全職員に支払うこととした。また、計算方法は即時に是正を行った。
- 12) 3月 令和8年度の36協定を職員代表と締結するにあたり、職員代表の選出方法手続きに不手際があり、一部の職員から36協定の有効性に疑義がある旨意見が出された。令和7年度末現在、協議継続中である。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日
- 2) 開所日数
- (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前8時30分～午後4時
- (3) 年間延開所日数 243日間
- (4) 平均活動時間 7時間

9 利用状況

- 1) 利用者延人員 12,226人(前年度 12,910人)
- 2) 1日平均利用人員 50.5人(前年度 53.1人)
- 3) 体験実習実人員 8人(前年度 5人)
- 4) 体験実習延人員 29人(前年度 14人)

10 利用者状況(令和8年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	0名		
20歳以上30歳未満	9名		
30歳以上40歳未満	16名		
40歳以上50歳未満	17名		
50歳以上60歳未満	14名		
60歳以上70歳未満	9名		
70歳以上	4名	平均年齢	45.8歳

2) 障害の状況

愛の手帳 2 度	1 1 名 (内身障手帳所持 1 名)
愛の手帳 3 度	1 5 名 (内身障手帳所持 2 名)
愛の手帳 4 度	2 3 名 (内身障手帳所持 5 名、精神保健手帳所持 2 名)
身体障害者手帳 1 級	6 名 (内愛の手帳所持 3 名)
身体障害者手帳 2 級	8 名 (内愛の手帳所持 2 名)
身体障害者手帳 3 級	3 名 (内愛の手帳所持 1 名)
身体障害者手帳 4 級	1 名
身体障害者手帳 5 級	3 名 (内愛の手帳所持 2 名)
精神保健手帳 2 級	5 名 (内愛の手帳所持 1 名)
精神保健手帳 3 級	4 名 (内愛の手帳所持 1 名)

3) 通所手段

送迎車利用	3 5 名 (内 4 名交通機関、内 2 名徒歩等と併用)
交通機関利用	2 1 名 (内 4 名送迎車両、内 1 名徒歩等と併用)
徒歩等	1 7 名 (内 2 名送迎車両、内 1 名交通機関と併用)
家族送迎	2 名
グループホーム送迎	1 名

4) 居住状況

管内居住	5 6 名	管外居住	1 3 名
------	-------	------	-------

5) 性別

男性	5 3 名	女性	1 6 名
----	-------	----	-------

1 1 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数

(1) P G 実施日数	9 6 日
(2) 週平均実施日数	3 日

2) 利用者 (令和 7 年 3 月 3 1 日現在)

(1) 利用者数	2 人
(2) 利用者延人数	1 2 6 人

3) 支援者 (令和 7 年 3 月 3 1 日現在)

(1) 職員	2 人
(2) ボランタリースタッフ	9 人
(3) 職員延人数	1 1 人
(4) ボランタリースタッフ延人数	1 1 8 人

4) 内容

(1) ウォーキング	9 6 回
------------	-------

1 2 余暇支援実習状況

1) 参加者	実 2 4 名	延べ 3 5 9 人 (前年度実績 実 2 5 名	延べ 3 3 4 人)
2) 延実施回数 : 9 7 回	(前年度実績 9 7 回)		

月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4 月 :	8 回	3 2 人
5 月 :	8 回	3 1 人
6 月 :	8 回	2 5 人
7 月 :	8 回	3 0 人
8 月 :	8 回	3 2 人
9 月 :	8 回	3 2 人
1 0 月 :	8 回	2 7 人
1 1 月 :	9 回	3 2 人
1 2 月 :	8 回	3 0 人

1月	:	8回	30人
2月	:	8回	31人
3月	:	8回	27人
合計		97回	359人

内容別実施及び参加状況	内容	実施回数	延参加人数	(前年度実績)
	ボウリング	36回	153人	(36回 143人)
	ドライブ	12回	41人	(11回 32人)
	ヘアカット	12回	30人	(12回 23人)
	テーブルゲーム	10回	33人	(12回 44人)
	DVD鑑賞	9回	28人	(12回 33人)
	料理	8回	51人	(6回 38人)
	さんぽ	8回	15人	(6回 13人)
	スイカ割り	1回	7人	(1回 7人)
	テレビ鑑賞	1回	1人	(0回 0人)
	買い物	0回	0人	(1回 1人)
	合計	97回	359人	(97回 334人)

1.3 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.4 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。